

# 地域の活性化は地域から

## 福井県勝山市 NPO法人まちづくりのむきの会

### はじめに

野向町では、まちづくりを地域住民全員の活動とし、地域に定着させ継続的に推進していき、周辺地域との交流を広げ、活動の輪を拡大していくために、行政や関連団体との連携を深め強めていきながら、「地域の活性化は地域から」をキャッチフレーズにした地域全体で取り組む姿勢や機運を、地域住民の中で高め、さらなる地域住民全体の参画を促し、組織の基盤をしっかりとさせるために、NPO法人を中心に活動しています。

この法人の目的は、地域住民に対して、のむき風の郷の施設を利用して地元農産物等の販売や住民の相互交流、地域情報の発信等の事業を持続的に行うことにより、まちづく

りの推進を図り、持続可能な地域の活性化・再生に寄与することです。

法人の活動は次の4点です。

- ①まちづくりの推進を図る活動
- ②農山漁村または中山間地域の振興を図る活動
- ③環境の保全を図る活動
- ④観光の振興を図る活動

次に、活動に係る事業は、次の3点です。

- ①地元農産物等の販売事業
- ②地域活性化交流事業
- ③自然環境保全事業

### 具体的活動内容

#### (1) のむき風の郷の運営

※営業期間は（4月1日～11月30日 毎週火曜日休業）

「のむき風の郷」は地域の活性化交流センターとして平成24年9月にオープンした地元農産物や惣菜、スイーツ等の販売施設です。

野向町では、昔から栽培されていたエゴマを地域の特産とする取り組みから始め、現在はおよそ5ヘクタールの耕地にたくさんの方がエゴマを栽培し、収穫した実のほとんどをエゴマ油として販売しています。また、将来の展望が少ない小規模農業でも、たくさんの方の作物を栽培、加工、販売できることで、住民の生きがいややりがいにつながっています。さらに、地元産の食材を使ったお弁当や惣菜、エゴマの実を使ったケーキや饅頭なども販売しています。



これらの活動の推進が、地元住民同士の交流の輪を広げ、さらには当該地域住民のみならず広く近隣地域住民や市民全体に、社会的、文化的、経済的活動の輪が拡大していきます。そして、そのことで、地域住民や広く近隣地域住民、市民全体に直接・間接的な利益を供与したいと思えます。

### (2)年間を通したイベント

#### 「のむき四季彩まつり」の実施

4月…のむき風の郷山菜まつりの開催

地域で収穫された山菜の販売・模擬店（地元産蕎麦、よもぎ餅、山菜天ぷら、アマゴの塩焼き）設置。地元保育園児の遊戯・竜神



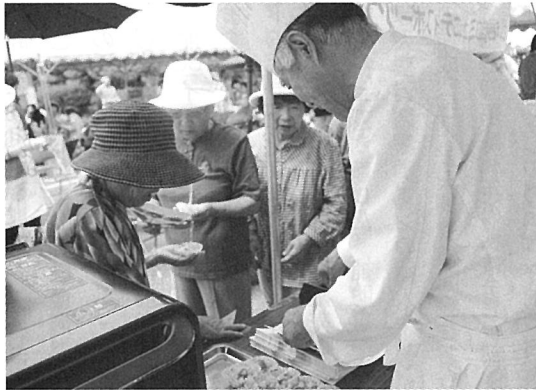
のむき風の郷「山菜まつり」

子ども太鼓・大日太鼓等のアトラクション。  
7月…トウモロコシ収穫祭の開催

地域で収穫されたトウモロコシ（味来という品種）の販売・模擬店（焼きトウモロコシ、コーンピザ、コーンラーメン、冷やしトマト）設置。トウモロコシの収穫体験、地元合唱団等のアトラクション。

10月…のむきコスモスまつりの開催

地域で収穫されたトウモロコシ、サツマイモの販売・模擬店（地元産蕎麦、手作りパンやスイーツ）設置。地元保育園児、小学校児童、竜神子ども太鼓等のアトラクション。コスモス畑の散策（人力車の運行）、コスモスの花を使ったフラワー教室。



「トウモロコシ収穫祭」

11月…のむき風の郷感謝祭の開催

地域で収穫された野菜の販売・模擬店（地元産蕎麦、アマゴの塩焼き、ぜんざい）設置。竜神子ども太鼓、剣詩舞等のアトラクション。

### (3)収穫体験ファーム 日向の菜園事業

この事業は「のむき風の郷」周辺の圃場を使って、主にトウモロコシ（品種は味来）とサツマイモ（品種は安納芋）を栽培し、販売する事業です。そして、保育園児や小学校児童たちの収穫体験活動事業です。収穫体験事業では、野向町の気候風土を活かした作物の収穫体験や地域資源の保全活動を通して、作物とジオ（大地）との関係を学習す



「のむきコスモスまつり」

るとともに、野向町の良さや素晴らしさを発見し、暮らしやふるさとに対する想いにふれながら地元農家との交流を深めることです。

#### (4)越前甲トレイルクラブ事業

6月に開催する「越前甲登山」は、野向町区長会が主催するイベントですが、この事業にNPO法人も共催し、事前の登山道整備や看板設置、また、紅葉シーズンには八反滝のトレッキングコースなどの整備をします。

### 活動の成果

「NPO法人まちづくりのむきの会」は、まちづくり事業とのむき風の郷の運営を行っています。野向町民全員が会員という体制で臨み、地域住民に対して、のむき風の郷の施設を利用して地元農産物等の販売や住民の相互交流、地域情報の発信等の事業を継続的に行うことにより、まちづくりの推進を図り、持続可能な地域の活性化・再生に寄与することを目的として活動しています。

NPO法人としての活動は、平成29年4月5日からですが、それ以前よりまちづくり活動としては、「野向町まちづくり推進委員会」が中心となり活動してきました。また、地域活性交流センターとして「のむき風の郷」は、

平成24年9月にオープンしています。

これらの活動を引き継ぐ形で、NPO法人の活動が始まりましたが、これまでの成果として、のむき風の郷の来客数や売上額の増加、イベント来場者数の増加があげられます。また、蕎麦の日を設けたりアグリフードEXPOへの出店、アオッサやふくい南青山291でのエゴマ油の販売など新たな活動も行ってきました。補助事業の支援を受け大型ガスオーブンの購入やパンフレットの作成、ホームページの開設なども行ってきました。平成30年の秋にテレビ放映もあり、健康食品としてのエゴマ油の利用者が急増し、勝山市のふるさと納税返礼品としてエゴマ油も多くの人に選ばれています。

しかし、課題も見えてきています。地元野向町民の利用割合が少ないこと、法人活動に携わる人が少ないことがあげられます。また、エゴマ油の消費拡大に伴い、エゴマ生産拡大のための方策の策定や生産者組合との連携が喫緊の課題となっています。また、法人の事業内容が拡大することによる組織体制の整備や法人の機能的運営方法の確立も、とても重要な課題です。

私たち法人が進める具体的な事業や活動は、過疎化が進む中山間地の住民の元気を創り、地域の活性化策そのものであり、営利

を求めず徹底した「まちづくり」そのものです。昔から栽培されていたエゴマを地域の特産とする取り組みから始め、将来の展望が少ない小規模農業でも、多くの作物を栽培し、加工、販売できる可能性を高めることにより、住民の生きがいややりがい生まれまます。

そして、地元の魅力や元気に関心が集まり、高まっています。その関心の集まりや高まりが、地域の活性化の源であり、野向町の持続可能な発展を確実なものとしていくと確信しています。さらに、これらの事業の推進が、住民同士の交流の輪を広げ、広く近隣地域住民や市民全体に、社会的、文化的、経済的活動の輪を拡大していきます。私たち法人も4年目の活動が始まっています。少しずつではありますが、新たな「まちづくり組織」が浸透し、定着し始めています。ややもすると沈みがちな「故郷野向町」の活力づくりにまい進できる法人組織としていきたいと思えます。

今後は、前述した課題に取り組むとともに、法人の活動の方向性をしっかりと定め、会員である野向町民すべてに理解してもらうための情報発信を確実に行っていききたいと考えています。

(NPO法人まちづくりのむきの会理事長

西出健二)